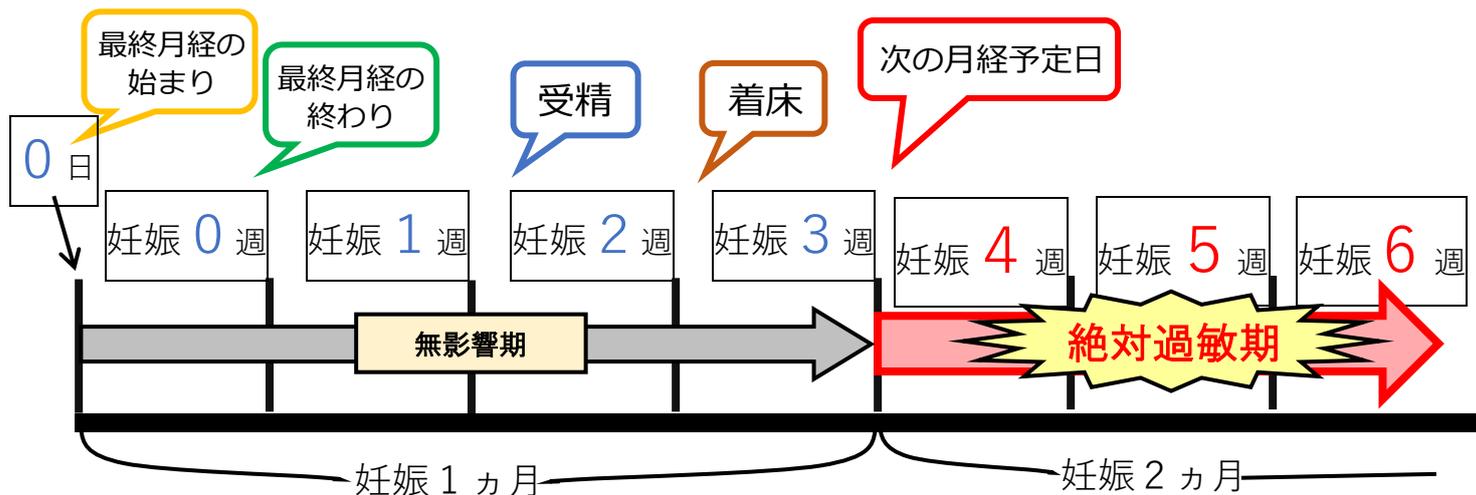


要注目!

男性も将来のために
しっかり覚えて
おきましょう!

妊娠と医薬品 ～将来のために～

妊娠の週数は、最終月経の始まった日を 0週0日 として数えていき、出産の予定日は 40週0日 です。妊娠周期によって、医薬品の服用がお腹の赤ちゃん(胎児)に大きく影響することがあります。



無影響期 (妊娠3週末まで)	胎児に奇形は生じない
絶対過敏期 (妊娠4週～7週末まで)	医薬品の影響で胎児に奇形が生じやすい 最も危険な時期!!!
相対過敏期 (妊娠8週～15週末まで)	胎児に奇形が生じる可能性はあり、まだまだ注意が必要!
比較過敏期～潜在過敏期 (妊娠16週～出産)	胎児に奇形は生じないが、胎児の成長に影響が出る

困ったことに、一番危険な絶対過敏期(=妊娠4週から)は、本来であれば次の生理が来る週なのです。計画的な妊娠でなければ生理が遅れていると思ってしまう、妊娠していることに気づかず、うっかり医薬品を飲んでしまうかも…。将来のためにしっかり理解しておきましょう。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《 一出張相談会 — 保健室に学校薬剤師が来ます 》
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用などについて、相談・聞きたいことがある人は保健室まで!
3月3日(木) 12時35分～13時10分

作成・発行元 北陸大学薬学部
准教授 大柳賀津夫(学校薬剤師)
准教授 岡本晃典(薬剤師)
5年生 南平沙和香

